

共用品推進機構だより 2018年06月08日(09)

目次

(26) 共用品推進機構関連記事

- ▽ 『第2回 楽しくて・ちょっとためになり・元気が出る日！
聞いてほしい！知ってほしいお話！』開催のお知らせ
- ▽ 『パッケージに関する良かったこと調査』を公開しました。

(27) サービス関連記事

- ▽ 「IoTで高齢者見守り 九電、オッタと実証実験」

(28) 行政関連記事

- ▽ 「ユニバーサルデザイン啓発パンフレット『まちなかで気づくかな？』を
発行／板橋区障がい者福祉課」

(29) その他、各種関連記事

- ▽ 「買い物で介護予防を／光プロジェクト」
- ▽ 「スーパーでデイサービス 利用者の買い物支援／フレッセイ」

(30) 新刊紹介

- ▽ 『もっともっと、速くなれるパラ水泳 山田拓朗』
- ▽ 『手で読む心でさわるやさしい点字 2 点字を書いてみよう』
- ▽ 『ちょっとしたことでうまくいく発達障害の人が
会社の人間関係で困らないための本』
- ▽ 『教育の基礎と展開 豊かな保育・教育のつながりをめざして 第2版』
- ▽ 『特別支援教育の理論と実践 S.E.N.S 養成セミナー1 第3版
概論・アセスメント』
- ▽ 『特別支援教育の理論と実践 S.E.N.S 養成セミナー2 第3版 指導』
- ▽ 『特別支援教育の理論と実践 S.E.N.S 養成セミナー3 第3版』

特別支援教育士 (S.E.N.S) の役割・実習』

▽『オリンピック・パラリンピックで知る世界の国と地域 5 南北アメリカ』

▽『オリンピック・パラリンピックで知る世界の国と地域 6 アフリカ』

▽『勇気ある一歩で世界が変わる！ 車いすバスケ香西宏昭』

(26) 共用品推進機構関連記事

▼『第2回 楽しくて・ちょっとためになり・元気が出る日！

聞いてほしい！知ってほしいお話！』開催のお知らせ

日時：2018年7月1日（日）13：30～16：30

場所：立川市 RISURU ホール第1会議室

〒190-0022 東京都立川市錦町 3-3-20

(JR 南武線西国立駅 徒歩7分)

内容：

13:30～14:10 楽しい話「遊びで育てるコミュニケーション」 森岡 典子
幼児の通園施設で言語聴覚士として働いたあと、都立特別支援学校で
重度重複障害のある子どもたちの言語コミュニケーションの指導に携
わっています。重症児に関わる言語聴覚士で「ST@」というグループを
作り、様々なイベントに参加し、重症児の遊び場作りをしています。

14:10～14:30 元気がでる話「いのちをありがとう」 山口 かほる
生後3カ月で脳性マヒと診断されるが、小さい頃から絵を描く事が好き
で、16年間研究所で絵を学び、現在も個展を多数開催しています。初め
は口で描いていたが医師の助言を受け、現在は足で描いています。

14:40～15:00～元気がでる話「ゆたかの笑顔とともに♪」

～重症心身障害の子どもが地域で暮らすこと～ 佐藤 真弓
医療的ケアを必要とする豊と、高校3年の息子の母。東京都重症心身障
害児(者)を守る会小平市分会会長をつとめ、地域の中で子どもたちが笑
顔で暮らせるよう活動中です。

15:00～15:40 ためになる話「Fun for everyone」

～すべてのこども達に楽しみを～ 奥山 俊博

東京大学先端科学技術研究センター研究員。福祉機器や制度活用の手伝いをしています。テクノロジーと、障害や困難さのある人の生き方に興味があります。9歳の時に関節リウマチになり、電動車椅子で出かけて楽しんでいます。

15:50~16:30 ためになる話「障害児・者と共に歩み、共に生きる、まちづくり」 清水 敦子

一般社団法人 Calin 昭島キッズサポートてんとうむし代表。昭島市に住んで8年になります。最近の私の『心の癒やし』となっていることが3つあります。一つは家族との食卓の時間。もう一つは、てんとうむしの子どもたちと一緒にいる時間。そしてもう一つは、てんとうむしのスタッフとの雑学豊富な楽しい会話のひとつです。てんとうむしは、まさに毎日が、『楽しくて、ちょっとためになり・元気がでる日』なんです！

主催：車椅子シーティング介護研究会

協力：共用品推進機構

お問い合わせ：事務局：有限会社でく工房

TEL：042-542-7040

E-mail：dekumado@deku-kobo.com

<楽しくて・ちょっとためになり・元気がでる日！[PDF ファイル]>

<http://www.deku-kobo.com/files/2018rakutame.pdf>

<でく工房ホームページ>

<http://www.deku-kobo.com/>

▼ 『パッケージに関する良かったこと調査』を公開！

今年度のテーマは「パッケージ（箱、容器、小袋等）」。良い点を伺うと共に、どのようなことに配慮すればより良いパッケージになるか、意見を伺い報告書としてまとめた。

全盲 19 人、弱視 13 人、ろう 30 人、難聴・中途失聴 15 人、盲ろう 7 人、上肢障害 2 人、下肢障害 12 人、下肢障害 15 人、失語症 1 人、難病（リウマチ）36 人、難病（パーキンソン病）39 人、がん 9 人、知的障害 4 人、発達障害 22 人、精神障害 4 人、認知症 4 人、高齢者 60 歳以上（国連の定義による）59 人、その他 5 人、障害はない 16 人、無回答 2 人。

以上 314 名の方々にご回答を頂いた。

<パッケージに関する良かったこと調査 [PDF ファイル / 4.6MB] >
http://www.kyoyohin.org/ja/research/pdf/report_of_package2018.pdf

<良かったこと調査ー共用品推進機構調査報告>
http://www.kyoyohin.org/ja/research/report_goodthings.php

(27) サービス関連記事

▼「IoT で高齢者見守り 九電、オッタと実証実験」

九州電力は高齢者福祉施設で、あらゆるモノがネットにつながる「IoT」を活用した見守りサービスの実証実験を始める。見守りサービス事業の Otta（オッタ、福岡市）と共同で実施。高齢者の居場所を確認したり、施設から無断で出ていくのを防止したりできるようになる。

九電とオッタは見守りサービス「キューオッタバイ」を共同開発した。施設の高齢者に専用の電波発信機を携帯してもらえば、あらかじめ設置した受信機が感知。施設の職員らはスマートフォン（スマホ）やパソコンで居場所を確認できる。

また出入り口に受信機や、ドアの開閉を検知する機器を置くことで、高齢者が外に出ようとした際、スマホなどからアラームが鳴るようにもできる仕組みだ。

（日経MJ 6月8日9面より抜粋）

(28) 行政関連記事

▼「ユニバーサルデザイン啓発パンフレット『まちなかで気づくかな?』を発行／板橋区障がい者福祉課」

ユニバーサルデザインについて楽しく学んでもらおうと、板橋区障がい者福祉課は、まちがいさがし形式のパンフレット「まちなかで気づくかな?」を発行した。

パンフレットは、日常で起こりうる困りごとを文章だけではなくイラスト

で表現することによって、10歳程度の子どもでも楽しく学ぶことができるよう作成。さまざまな人のくらしを支える“まち”を舞台に、ゲーム感覚でユニバーサルデザインに触れられるよう、まちがいさがしの形式を採用した。

http://www.city.itabashi.tokyo.jp/c_news_release/090/090959.html

(29) その他、各種関連記事

▼「買い物で介護予防を／光プロジェクト」

高齢者が買い物を楽しみながら健康を増進し、地域の商業振興にも役立つ「ショッピングリハビリ」。年々増える高齢者の健康維持が課題となるなか、光プロジェクト（島根県雲南市）の社長が考案した介護予防の新しい取り組みが注目を集めつつある。

高齢者の自宅へ同社のスタッフが迎えに行き、まずサロンで準備運動と健康増進体操、認知訓練などをしてもらう。その後、高齢者が歩行器のように利用できる「楽々カート」を使って、リハビリを兼ねたショッピングを楽しみ、買った商品とともに自宅へ送る。

スタッフのサポートが重要だが、核となるのが、ひじを乗せて体を支えられる楽々カート。工業デザイナーや島根県産業技術センターの研究者らと歩行器を改良して開発した。

島根県内外の商業施設や介護事業者、自治体などから引き合いがあるといい、ショッピングリハビリ導入の動きが広がりそうだ。

（日経MJ 6月8日9面『耳寄りな話』より抜粋）

▼「スーパーでデイサービス 利用者の買い物支援／フレッセイ」

スーパーのフレッセイは前橋市内の店舗の一角に、通所型のデイサービス施設を共同事業として開いた。施設は介護事業のエムダブルエス日高（群馬県高崎市）が運営し、利用者が店内で買い物をするのを支援するサービスをセット。介護スタッフが送迎や荷物の運搬を手伝い、日常の買い物を支援することで利用者の社会参加を促す。

「予防デイトレセンター大利根」はフレッセイ大利根店（前橋市）内のテ

ナント用スペースにオープンした。要介護度が軽い「要支援 1、2」の人を対象に、午前と午後の 1 日 2 回開催。2 時間コースで各 15 人が参加できる。

エムダブルエス日高が開発した運動プログラムなどを実施した後、最後にフレッセイで買い物をしてもらおう。施設の利用者にはネームホルダーを付けてもらい、店員がサポートしやすくする。

(日経MJ 6月8日9面より抜粋)

(30) 新刊紹介

▼『もっともっと、速くなれるパラ水泳 山田拓朗』

パラ競技スイマーとして、13歳でアテネパラリンピックに出場した山田拓朗。2020年の東京パラリンピックに向けてさらに躍進する彼の、力強い、まっすぐな生き方を描く。パラ水泳の解説も収録。

文：沢田俊子（さわだ・としこ）

発行：新日本出版社

本体価格：1600円（税別）

ISBN：978-4-406-06233-6

▼『手で読む心でさわるやさしい点字 2 点字を書いてみよう』

目の見えない人たちが使う、指でさわって読む文字「点字」をおぼえましょう。2は、長いことばを書くときの決まりや、自己紹介カードや手紙の書き方を説明します。コピーして使える練習のページあり。折り込みの点字表つき。

監修：日本点字委員会

編集：国土社編集部

発行：国土社

本体価格：3500円（税別）

ISBN：978-4-337-28402-9

▼『ちょっとしたことでうまくいく発達障害の人が 会社の人間関係で困らないための本』

発達障害の特徴に苦しむ社会人のために、人間関係を円滑にする方法を紹介。デジタルを使った方法や、覚えておけば実践できるビジネスマナーなど、ちょっとした工夫で行うことができるアイデアが満載。

著：對馬陽一郎（つしま・よういちろう） 安尾真美（やすお・まさみ）

発行：翔泳社

本体価格：1600 円（税別）

ISBN：978-4-7981-5487-9

▼『教育の基礎と展開 豊かな保育・教育のつながりをめざして 第2版』

保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭等を目指している人に向けて、乳幼児期・児童期の教育の基礎と展開を解説。各章末には設問を掲載し、内容に関連したコラムや、教育関連の基本の法律等も収録する。

編著：高野良子（たかの・よしこ） 武内清（たけうち・きよし）

発行：学文社

本体価格：2000 円（税別）

ISBN：978-4-7620-2807-6

▼『特別支援教育の理論と実践 S.E.N.S 養成セミナー1 第3版

概論・アセスメント』

特別支援教育士資格認定協会が行う専門家養成セミナーのポイントをまとめたテキスト。1は、特別支援教育と発達障害について概説し、アセスメントの方法と総合的解釈を解説する。法律・制度などの最新動向に対応した第3版。

編：特別支援教育士資格認定協会

監修：竹田契一（たけだ・けいいち）

発行：金剛出版

本体価格：2700 円（税別）

ISBN：978-4-7724-1607-8

▼『特別支援教育の理論と実践 S.E.N.S 養成セミナー2 第3版 指導』

特別支援教育士資格認定協会が行う専門家養成セミナーのポイントをまとめたテキスト。2は、特別支援教育における指導と、個別の指導計画の作成と活用について解説する。法律・制度などの最新動向に対応した第3版。

編：特別支援教育士資格認定協会
監修：竹田契一（たけだ・けいいち）
発行：金剛出版
本体価格：2800 円（税別）
ISBN：978-4-7724-1608-5

▼『特別支援教育の理論と実践 S.E.N.S 養成セミナー3 第3版
特別支援教育士（S.E.N.S）の役割・実習』

特別支援教育士資格認定協会が行う専門家養成セミナーのポイントをまとめたテキスト。3は、特別支援教育士（S.E.N.S）の役割と指導実習について解説し、関係資料を収録。法律・制度などの最新動向に対応した第3版。

編：特別支援教育士資格認定協会
監修：竹田契一（たけだ・けいいち）
発行：金剛出版
本体価格：2300 円（税別）
ISBN：978-4-7724-1609-2

（編集後記）

- ・今年各地で例年より早い梅雨入りが発表されています。
この季節になるとレイングッズに苦慮しますが、毎年、新しいアイデアがある製品を探すのも楽しみの一つとなっています。
軽量で丈夫、軽い力で開き、ワンタッチで使いやすく、様々な視点からアクセシブルデザインになっている製品を探し求めたいと思っています。
（森川美和）

共用品推進機構公式サイト <http://www.kyoyohin.org/>
共用品ニュース（ブログ） <http://www.kyoyohin-news.org/>